

関連記事2面

ドラフト 1 位指名を受け、背番号 28

修

撮影：相川直輝さん（文3）

千葉 雄太、富永龍輝、梅元 彦、原 熙

学内歴史に残る快挙

10月20日、プロ野球のドラフト会議が行われ、専大野球部から菊地吏玖（経営4・札幌大谷）が千葉ロッテマリーンズから1位指名を受けた。専大からドラフト1位が輩出されるのは実に25年ぶりの快挙であり、大学中が歓喜に包まれた。幼い頃から憧れていた大夢を叶え、指名直後には「まさか1位で呼ばれるとは思っていなかったのでびつくり」と驚きを隠せなかったが、「目から汗が出た」とこれまで関わった人への感謝から胸が熱くなっていた。これからについては「マリーンズが日本一になるために腕を振り続けていきたい」と自らのことよりもチームに貢献する一心でプレーすることを誓った。

学内歴史に残る快挙

チー・ム・の・エース・を・担・う・
4 年・の・春・・秋・の・
リ・グ・戦・で・共・に・最・優・
秀・防・御・率・、・ベ・ス・ト・ナ・
イ・ン・に・輝・い・て・お・り・、・大・
字・日・本・代・表・隊・に・も・選・出・さ・
れ・て・い・る・。・ま・さ・に・チー・
ム・の・大・黒・柱・だ・。・特・徴・は・
最・速・152キ・ロ・の・直・球・
を・軸・に・多・彩・な・変・化・球・を・
織・り・交・ぜ・て・打・者・を・抑・え・
る・能・力・が・高・い・点・。・全・て・
は・防・御・率・と・い・う・数・字・が・
顕・著・に・表・わ・て・い・る・。・
ま・た・、・鋼・の・よ・う・な・タ・ブ・
さ・と・183cm93kg
と・恵・ま・れ・た・体・格・を・も・
ち・、・即・戦・力・と・し・て・期・待・
が・か・か・る・。

真っ直ぐな姿勢

菊地の謙虚で人当たりが良く、いつで

とびきりの笑顔は魅力的だ。試合でも全力でプレーし、仲間を鼓舞する。気迫を全面に出しマウンドで吠える姿勢は誰もが心惹かれる。

そんな同じ大学に通っている仲間がブルオの世界にはばたく。これからぜひエールを送ってずっと応援し続けて欲しい。必ず、ブルの舞台でも活躍し、日本の野球界に名を轟かしてくる存在になるだろう。

（河上 明来海）

関連記事2面に続く

記事2面に続く

チームメートから同上げ祝福される菊地

受付時間：月～金曜日 10：00～17：00 ※土日祝はお近くの店舗までご連絡ください。

QRコードからご来店予約！

QRコードからご来店予約！



まるやま・京彩グループ

遊



あはせん

 資料

う よ

大人

30

360 卷

21 粹

Ailes

Audio
toll

STUDIO 1

S **R**

の

Tokyo

付特照：

全曜

20
0:00

7:00

上日視計

丘くの時

中での

ください。

菊地吏政

夢の舞台で輝け！

撮影：河上 明来海

専大から25年ぶりにドラフト会議一巡目で指名される快挙を成し遂げた菊地吏政（経営4・札幌大谷）。その素顔に迫る――

野球との出会い

出身は北海道苫小牧市。野球をはじめたきっかけは父親が野球をやっている姿を見ていたという。小学2年生で本格的に始めた。現在メジャーリーグで活躍したダルビッシュ有投手をプロ野球観戦した際に「すごくカッコいい、自分もあいたい」とプロ野球選手になることを目指した。そこから中学校で硬球に出会い、高校、大学、そしてプロへと、まさに野球という競技が人生そのものとなった。

苦しんだ時期

しかし、良いことがたくさんあったわけではなく、辛いときもあった。高校1年の夏明けから2年の秋までのおよそ半年、肩のケガに悩まされていた時期だ。病院に通い続け、リハビリや教えてもらったストレッチをしてもなかなかよくならなかった。いつ治るんだろうと思っていた。と振り返る。そしてその後ケガからは復活していたが、専大に入学後は完治に専念。1年と2年の夏までは本格的な投球はせず、トレーニングと柔軟に注力しつつ、野手とともにバッティングや守備のノックに入ったりもした。身体づくりをしつかりと行ったことで、本人も強みという身体が出来上がり、体が全体の力をボールに伝えられるようになった」と手応えを口にした。積み重ねてきた地道な鍛錬の毎日「良い期間だった」という。

「1つ1つ目の前を全力で」

これから

そんな菊地は描いていた理想の夢を見事に叶えた。これから「まずは目の前のことに1つ1つ全力で取り組んでいき、少しでも長く野球選手としていられるようにしたい」と意気込む。専修大学として非常に明るく、大学の名を背負って、プロの世界に飛び込む。（河上 明来海）

菊地の大学通算成績

	試合数	勝利	敗戦	防御率	奪三振
1年春	登板なし				
1年秋	登板なし				
2年春	コロナで中止				
2年秋	4	3	1	0.31	34
3年春	7	2	1	1.08	42
3年秋	9	1	0	0	5
4年春	6	3	2	1.2	49
4年秋	9	4	2	0.85	33
通算成績	29	13	6	0.9	163

～記者が深掘るプロフィール～

- ①自身の性格：目立ちたがり、面白い
②特技：なかやまきんに君のモノマネ
③野球以外の得意競技：スケート
④目標とする選手：ダルビッシュ有
⑤好きな言葉：プルスウルトラ（ラテン語で「遥か彼方へ」という意味。好きなアニメのキャラクターが使っており、意味もかっこよくて好きだから）
- ⑥好きな芸能人：浜辺美波
⑦好きな食べ物：ハンバーガー
⑧ロッテのイチオシお菓子：パイの実
⑨北海道のいいところ：過ごしやすい気候、食べ物が美味しい
⑩北海道でおすすめのお店：トリトンという回転寿司
⑪道内でおすすめスポット：自宅（笑）

野球部

（文・写真）河上 明来海

2022年度の野球部は、春季リーグ戦は2位に終わったものの、秋季では3年ぶりに優勝を果たした。その後の悲願の1部昇格を達成すべく、1部6位の駒澤大学との入れ替え戦に挑んだが、あと1歩は及ばず2部残留。4年生にとつてはラストゲームとなり、入学してからはじめての目標は、最後の最後まで掲げていた。4年生の力を引き継ぐ新チームは、主力の想いを込めて3年生が多く残った。無念の悔しさを多く残った。悲願達成へ始動する。

令和4年度東都大学野球秋季2部リーグ戦

順位	大学	勝	負	勝ち点
1	専修大	9	3	4
2	東洋大	8	4	4
3	立正大	6	6	3
4	東農大	6	6	2
5	拓殖大	4	6	2
6	国士館大	2	10	0

令和4年度東都大学野球1部・2部入れ替え戦

専修大	3 - 5	駒澤大
専修大	4 - 3	駒澤大
専修大	1 - 8	駒澤大

斎藤正直監督（62）は、「春・秋季リーグ戦を共に9勝3敗で終え、特に東洋大に勝ち星を上げられて一部に勝ち上れる・近づける力があった」と手応えを感じた反面、「入れ替え戦では3戦目までいったが、短期決戦における経験量や勝たなければいけない重圧の中でチームの団結力・結束力にやや差があった」とまだまだ一部チームの壁は大きく立ち、だかっていることを認めた。今シーズンを振り返った。

また、今季の中で最も成長が目立った選手は西館昂汰（経営）

急成長を確信

抑えたので完全に成長したという。確信を得た中で秋に投に枚数が揃う。さらに野手では旧チーム

→ブレで引張っていく

来季の展望

指揮官は来季へ向け、投手力に今年より充実しているという。主戦として期待がかかる西館を筆頭に、松田瑛亮（経営3・宮崎学園）、鯉沼峻（商2・加藤学園）、常田唯斗（文2・飯山）、田中誠央（経営2・高岡第二）、平田健真（経営2・専大松戸）、石井夢沙土（経済1・秋田、岡本陸（経済1・専大松戸）、須藤綺梨（経営1・延岡学園）と下級生中心に枚数が揃う。さらに野手では旧チーム

から4番を務める外知数。「今の1・山優希（経営3・開2年生から誰がで星、今秋にリーグ最でくるか。2月の多本塁打と最高殊勲オープン戦から注選手に輝きベストナ目したい」。新たなインに選ばれた西村正捕手の台頭に進之介（経済3・栄期待が膨らむ。2本塁打の山本健斗（経済3・松商学園）、1年時から正遊撃手の西里颯（経済2・興南）といった主力に加えてケガが完治した中川翔太（経営3・日本航空石川）、爆発的な長打力をもつ作本想真（経営2・大村工業）にも期待する。

一方、課題を抱えるのは捕手。間中堅（経営3・専大松戸）がベンチ入りしていたものの、可能性は未

新主将に小林が就任

新チームのキャプテンは、小林寛弥（経営3・坂井）が担うことになった。小林は初めての入れ替え戦を経験したことに触れて「個人的にもチーム的にも徹底力という部分で、甘さがあった」と今季への悔しさをにじませた。

西館昂汰

新エース筆頭候補

西村進之介

投手揃ったリードオフマン

外山優希

主砲として引張る

斎藤正直監督

専修大学購買会

がんばれ専修大学！

横断幕
チームウェア制作

スポーツ
応援グッズ販売

Twitter Instagram Facebook Line

神田キャンパス店（1号館地下1階）
TEL:03-3262-5759 / FAX:03-3262-5813
生田キャンパス店（8号館5階）
TEL:044-911-1097 / FAX:044-932-7956

リーグ戦を振り返って

貴志永修斗（経営4・豊浦）は、今秋のリーグ戦が始まる前に「三冠（今春、今秋、12月のインカレで優勝）を目指す立場であるのは自分たちだけなので、そこを目標にチームに呼びかけていた」という。そんなチームはリーグの前半戦を初の快挙となる11連勝を含む13勝1敗で折り返し、好調ぶりに「首位でタインできたことは大きかった」と手応えを感じていた。しかし、後半戦で格下の明治大学に負けてしまったことがチームにとって最大の痛手となり、「雰囲気暗くなっていた」と話す。さらに、自身も含めて怪我人が多発し、チームは下降状態に。目標に黄色信号が灯った。そしてリーグ終盤、負ければ相手の白鷗大の優勝が決まる試合では、「前半戦で敗れていたため」同じ相手に2敗

貴志永修斗 主将

するわけにはいかない、目の前で優勝はさせない」と強い気持ちでチーム全体に伝えて臨んだ。結果は72-66と接戦をものにしていた勝利。チームは喜びを爆発させ、「とにかく勝ち切れて良かった」と安堵の気持ちだった。ただ、リーグの最終戦は、試合が始まる前に白鷗大の優勝が決まってしまう中で臨む形となった。チームのモチベーションを保つため、「切り替えて、2位を取るという目標を掲げた」といい、見事に勝利。リーグ戦を2位で終えた。「悔しさが残らない結果となったが、メンバーの気持ちの切り替えとチーム力というのはすごく上がった」とチームの成長を実感する大会と総括した。（河上明来海）



秋季リーグで準優勝を果たした男子バスケットボール部（撮影：テイ ショ）

バスケット男女ともにインカレへ

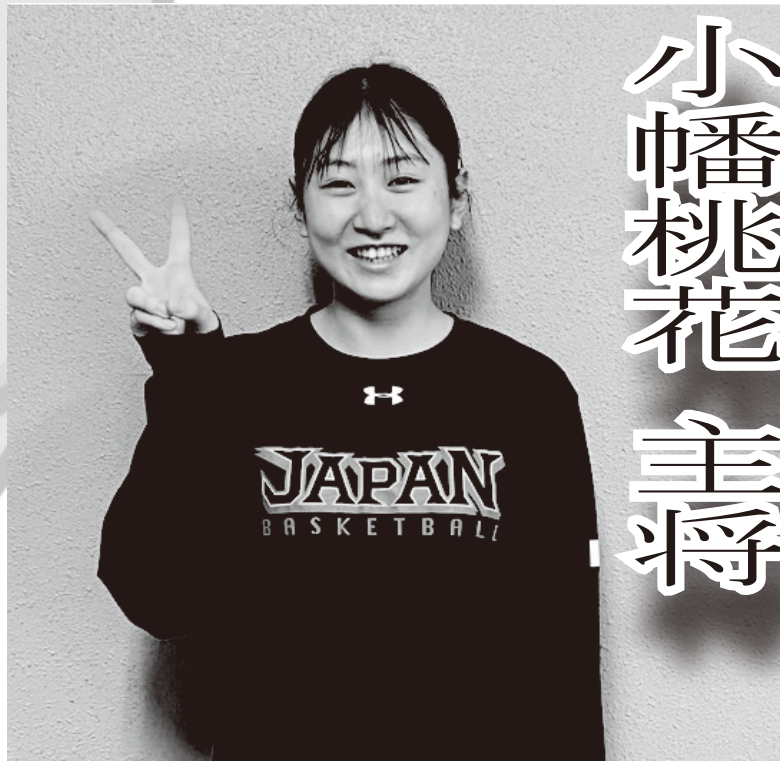
インカレに向けて

インカレの目標は「もう優勝しかない」ときっぱり。昨年は接戦を落として4位になっていると明かしたうえで、「今年は接戦を制する力がついてきているので、そこでしっかり勝ち切りたい。最後の舞台で結果を残すことこそ、チームの力だ」と力強く意気込みを語った。また、インカレが学生最後の大会となることについては、「集大成として、後輩に力がある選手はいるが、やはり4年生のチームなので、みんなで勝って終わりたい」と決意を表明。そのため、苦しいときは4年生を中心に引っ張っていく、最後の雄姿を見せる覚悟だ。

1戦必勝を胸に

「1戦必勝」を掲げ、東一部で奮闘を見せている専修大学女子バスケットボール部。チームをまとめているのは4年生の小幡桃花（人間科学4・浜松開誠館）だ。専修大学の見てほしいところとはずばりディフェンスとチーム力だという。

「シニョー」を掲げ、東一部で奮闘を見せている専修大学女子バスケットボール部。チームをまとめているのは4年生の小幡桃花（人間科学4・浜松開誠館）だ。専修大学の見てほしいところとはずばりディフェンスとチーム力だという。



練習後、取材に応じてくれた小幡桃花（撮影：テイ ショ）



貴志永修斗（撮影：テイ ショ）

第98回秋季関東大学リーグ戦結果

順位	大学	勝	負
1	白鷗大学	22	4
2	専修大学	21	5
3	東海大学	20	6
4	大東文化大学	19	7
5	日本大学	19	7
6	筑波大学	15	11



円になり、主将・小幡の話を聞く女子バスケットボール部（撮影：テイ ショ）

第72回関東大学リーグ戦結果

順位	大学	勝	負
1	白鷗大学	9	0
2	東京医療保健大学	8	1
3	筑波大学	7	2
4	早稲田大学	5	4
5	山梨学院大学	4	5
6	専修大学	4	5

練習風景はこちら



レスリング 大学日本一へ

三重県で生まれ、競技経験者である父の影響で物心がつく前から道場に通っていたこと、きつかけに、他の競技と違って物を使わず自分の素手だけで戦う魅力に惹かれ、競技を始めた徳力寛太（文4・リーニスタイル）である。フリースタイルである徳力のスタイルは長所は、一発勝負ではなく小技を重ね地道に点数を取り、相手に取られても取り返す粘り強さである。一番印象に残っている試合は大学1年生で出場したジュニアオリンピックカップで長所を生かし優勝した試合と、エストニアで行われた世界ジュニア選手権大会だという。（花田うらら）

主将・徳力の素顔

専修大学のレスリング部は、昭和6（1931）年に開催されたロサンゼルスオリンピックのレスリング種目に啓発されて昭和10（1935）年に創部され、関東の大学の中でも強豪といえる実力がある。昭和39（1964）年のメキシコ大会からバルセロナ大会まで9名のオリンピック選手を輩出し、今まで金メダルと銅メダルを2回ずつ日本にもたらしている。今回は大学日本一を目指し、部を率いている主将の素顔に迫る。



主将・徳力（撮影：河上明来海）

女子バドミントン



練習風景はこちら→



目標だった1部昇格を達成した女子バドミントン部。坂井叶（文4・新潟青陵）は、「今回昇格できたことは大きい。挑戦者という気持ちで向かっていくだけ」と熱い思いを語った。チーム作りの目標では、「部の3分の2のメンバーが寮で一緒に生活しているため、寮の生活と部活のオン・オフをしっかりと使い分けて雰囲気あるチーム作りをしていきたい」と話した。

女子テニス



主将・増淵つかさ（提供：女子テニス部）練習風景はこちら→



3年生で初めてリーグ戦を経験し、「1部に昇格したいという気持ちが強くなったと同時に1部昇格の難しさも感じた」と語る増淵つかさ（文3・作新学院）。「リーグ戦は次が最後なので、1部に昇格できるように一年間全力で頑張りたい」と話す。また、「切磋琢磨しつつ、お互いを尊重し合えるチームが理想。先輩後輩関係なく意見を取り入れていくことでチームに新鮮さや生まれると思うので、メンバーが意見を言いやすいような環境作りもしていきたい」と話した。

新主将直撃

専修大学

生田キャンパス
神田キャンパスの皆様へ

専修大学購買会提携業者の不動産会社ミニミニが、ひとり暮らしを始める専修大学生の皆様のお部屋探しを全力でサポートします！

神田キャンパス担当店

ミニミニ飯田橋店

専修大学 神田キャンパスのお部屋探しはおまかせ下さい
株式会社ミニミニ城東 〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目9-6 ☎03-3269-1532
■営業時間 10:00~18:00 ■宅建番号 国土交通大臣(4)第6271号



生田キャンパス担当店

ミニミニ向ヶ丘遊園店

専修大学 生田キャンパスのお部屋探しはおまかせ下さい
株式会社ミニミニ神奈川 〒102-0071 神奈川県川崎市多摩区登戸2719 モリビル1F ☎044-911-3332
■営業時間 10:00~18:00 ■宅建番号 国土交通大臣(2)第8434号



11.1月 2.28月



早くお部屋を探したい！でも入居はもう少し先・・・そんな新入生の悩みを解消します。

無駄な家賃がかからないお部屋探し...それが早得キャンペーン学生住まいプランです。早得キャンペーン学生住まいプランの物件は、現在空いているお部屋を今すぐに契約しても最大3月31日まで家賃発生いたしません。



スマホで、パソコンでお部屋が見つかる！
専修大学専用お部屋探しページ

専修大学専用のお部屋探しページなら、キャンパスごとに部屋探しをすることが出来て便利です！

最寄り路線から探す	地域・区で探す
周辺環境情報	カンタンお問合せ



チームの得点王

瀬川 怜奈



撮影：河上明来海

高校は秋田の中学校に入學したので、次のU19のためにもしっかり練習しようと思う」と謙虚な面を見せた。自身の長所はリバウンド力であり、「泥臭いプレーでチームに貢献していきたい」と語った。今後については「自分が試合に出れない関係なく、大活躍がしたい」という結果を出していきたい」と日々の準備の大切さを強調した。

話を予習復習しないといけないくて大変」と文武両道の厳しさを話した。さらに、U18日本代表選出について、「選ばれていい人なのか最初はわからなかった」と本音を打ち明けながらも、「日本より身長の大きい人とマツチアツリもやるのでその経験で大学にも活かしたい」と意気込み、「U18でのプレースタイルが少なかった

瀨川 怜奈

撮影：河上明来庵

「専大女子バスケの見てほしいところ」

「ざぱり『ディフェンス』と『チームム力』という。『今まではなかなかたが、この一年間スキルコアにつ週に1回ディフェンス練習をやらせてもらったので見て欲しい』と、これい、チームム力では『ペン』とチの雰囲気やコート内の盛り上げた声かけに注目」

また、関東一部は「ディフェンス力が高い」ことが特徴だといい、「シュートチャンスをとかなからせてもらえないので速攻などから打てる時には打つようバウンドを狙い、シュート本数を増やすことを共通認識としてある」とチームのオフェンスについても言及した。瀨川はまだ1年生、身長180cmとチームトップクラスであり、これからの活躍が楽しみであり、注目だ。

（千葉雄太）

プロになって世界へ

1年生から専修大学ゴルフ部のレギュラーとして活躍している福田修作（経営2・明徳義塾。そんな仮ゴルフを始めたきっかけは「父親と一緒にテレビでゴルフの試合を見ていた時に、自分もこのようになりたいから」）の選手目より出たの、その飛距離を武器にコース戦略を組み立てること。改善点は、

「かかニブルがでなく
なった場合に
自分何が残る
のかと考える
ことも残らない」

専修大学に語った

「最終的に海外で活躍できるように選手になりたい」と力強く語った。今後活躍に注目が集まる（富永龍輝）

専修大学のレスリング部長の注目選手4、岡本景虎(経営4・和歌山北)。兄と双子の弟の3人兄弟で喧嘩が絶えず、この怪我をさせることがないようになさなければいけないからと、レスリングを始めた高校では顧問の先生がグレコローマンススタイルであったことと、フリースタイルと違って大きく投げけるなどダイナミックな技を繰り出すことに魅力を感じ、グレコローマンススタイルに転向した。岡本は毎日その日の反骨を1回に絞って翌日に絞って翌日の課題を3つほど挙げて少しづつ苦手を削ぎ、さらし手技を増やすなどの努力をのけているのだという。その結果が一番出たのが、10月に行われた全日本グレコローマン選手権大会であり、見事優勝を果たした。

レスリングは身体をぶつけ合いはじめ戦うので鼻血はもちろん脳しんとや首の怪我、骨が折れることが多く試合会場には救急車が絶えず、常に怪我と隣り合わせのとても危険なスポーツでもある。しかし、第一回からオ

リンピック種目になるほど世界中に競技者がいる。危険を犯してまでも夢中にさせるのがレスリングの魅力といえるのではないだろうか。現在、岡本はこの先就職して仕事をしながら競技を続けていくという。今後の二人の活躍に注目だ。

(花田うらら)



田中 剛太郎

関東選手会卓球秋杯で惜しくも2位で終えた男子卓球部。注目選手は優秀選手賞を受賞した阿部悠平(文三・希望ヶ丘)とエースとしてチームを支えた3年生の阿部は、新チームになりキャプテンとしてもチームを率えていくことになった。4年生が8人いたことで一気に人数が減ったが、「チームの雰囲気は良い。1年生がのびのびできている」と新チームの様子を語った。エースとキャプテンの両立になるのが中高で経験もあり、「プレッシャーはない、責任感を持つ」とどっしり構えていた。今年は個人戦では良い成績だった男子卓球部。新チームになり団体戦で勝つために、「団結力のある若いチーム」をモットーに「チーム」としてワンランク上を目指していきたい。個人的な目標は「リーグ戦全勝」と団体戦で今年の悔しさを晴らすことに燃えている。

練習風景は
こちら→

果に終わった。団体戦では9月に行われた関東学生剣道優勝

修剣道大学剣道部は、2023年10月を迎える。その10月27日を飾る新キヤテンは演劇大座（経営3・福地大蔵）である。彼は父の影響で剣道に興味を持ち、父が運営している道場で5歳の時から竹刀で練習始めた。来る日も来る日も稽古を重ね、変化自在なスタイルをこの道とスタイリッシュを確立していき、高校ではその名の輝かしい実績を残していた。様々な大学からのお誘いがあつたが、自分の剣道スタイルを尊重し、生徒目主性に主軸を置いている専専剣道大学に目を惹き、入学を決意したという。

今年度、剣道部の成績は、7月に行われた全日本学生剣道選手権大会で、濱地が2大会連続の選手権を優勝（勝利）、そのベスト1という結果に終わった。団体戦では9月に行われた剣道優勝



↑練習風景は
こちら

ハマチ Q&A

憧れの人物：高校で日本人になった父
専大に入って良かったこと：自分の思うような剣道ができること
座右の銘：夢幻自在
剣道以外にやりたいスポーツ：サッカー
よく食べるもの：ラーメン
プライベートの過ごし方：韓国ドラマを見ること
趣味：K-POPの情報収集
好きな芸能人：TWICEのサナ
みなさんに一言：部員募集中！みなさん早く来ててください！

記者が所属する部活、好きな競技の注目選手を決め、徹底的に迫った。

主将とし

世界柔道選手権大会の選考会に、創世館にも、講道館にも出場し、創部依頼となる初戦突破を果たした織茂峻伍（経営3・木更津総合）の素顔に迫った。

【競技に出席】

柔道を始めるきっかけは、物心がついたときから。親がコーチをやっていた関係から、道場には毎日連れていかれたという。兄が柔道をやっていた活躍する姿に興味をもち、小3から本格的に始めた。そんな兄は大学2年生までずっと背中を追いかけていた憧れの存在だと話す。

ことがきっかけだ。

「チームを引っ張っていつか存在前からあった織茂は有言実行で主将に就任。『事が終わったあとから責任を取ることはできない』ので1日1日を後悔なく過ごすように部をマネジメントしたい」と力強く語った。試合に出るような関係なく、選手一人一人が同じ目標をもてるよう、まとめていく。

（文・写真〓河上 明来海）

体戦で優勝には届かなかったがチームのダブエースとして聖女女子短足の成田琉夏（文4）や聖女女子短付（シ）と齋藤華南（経済2・秋商）。シニア国内ランキングで成田が3位、齋藤が2位につけており、共にナショナルチームに属している。

最後の全日本学生フエンスン選手権大会を終えた成田は、田代3位という成績を「悔しいとはやきさった」と振り返る。父や祖父の影響で7歳の時に競技を始め、最初はフルールをしていたが、よもぎの試合に出た際、フルールよりも良い成績が出た以降、フルールを続けている。現在はチーム公費員から頼られる、専修大学の優等生として、昨年の全日本選手権を決めている。昨年の全日本選手権を大会個人戦では3位という成績を残し、個人団体共に強さを見せた。相手のプレーを客観的に分

一面からは想像がつかないくらい一氣に戦間モードに入る。切り替わが上手な部分も強さの秘訣なのではないだろうか。

12月には全日本フエンシング選手権大会団体戦が行われた。2人が専修大学のチームとした団体戦を組むのはこの試合が最後だ。大いなる活躍に注目だ。

(嶋田愛音)

秋季リーグ戦
敢闘賞・これからの主役

秋季リーグ戦を2位で終えた専修大
学。そのチームで敢闘賞を受賞し、2
選出など輝かしい実績を残している
のは浅野ケニー（経済実・洛南）であ
る。バスケットボールをはじめたきっ
けは「5歳上の兄の影響」という。「家
族全員がバスケットをやっていたわけ
ではなかったが高校の頃からここまで
続けるか悩んでいた。」と打ち明けた。

誰からも
必要とされる
選手に
 浅野 将一

 プレー映像は
こちら！

甲斐兄弟

↑ 左から 兄 甲斐孝太、弟 甲斐優斗
撮影：テイ シ

た専大バレーボー
部には、現在二人の
選手がいる。甲斐
（文3・日南
太郎）と甲斐優斗（
経3・日南振徳）だ。

↓練習屋



エースである宮島晴香（経済2・専大附属）は1

1部昇格へ
チームが誇る
スピードスター



写真提供 成田フットボールクラブ

人を始めとする実働力
 を自分の武器と語り、試
 合前はその言葉通り目の
 前のディフェンスを抜き
 去り、するところ、ヨット
 を決める。
 高校時代バスケ部だっ
 た彼女はラク罗斯を始め
 たきっかけは先輩やチー
 ムの雰囲気の良いから。
 大学生活が充実するこ
 と思ったのも入部のきっか
 けと話す。

地上最速のスポーツとて来
 言われるラク罗斯で来
 シーズン1部を日指す
 チームにおいて彼女の活
 躍が目が離せない
 （大津友笑）

部員大募集!



@SENSHULAXSHINKAN2022

— 直の實力發揮へ 応援の専修 —

新入会員募集中！

主な活動内容

- ・ファンと一体！応援企画立案、SSC 会員への案内
- ・優秀な成績を収めた体育会並びに選手を表彰
- ・支援金の交付を通じ、専大スポーツをサポート
- ・ZOOM や YouTube を活用し、専大スポーツの輪を拡大中

新幹事大募集！ SSCを持続させるために新世代の幹事を募集します！まずは幹事会で意見交換をしませんか？QRコードから、メールでご連絡ください。

■年会費(一口) ※入会者にはSSCオ
・学生会員 1,000円 ジナルTシャツを進呈
・一般会員 5,000円 いたします。

メールはこちらから
mail@senshu-supporters.com

SENSHU
Univ.
S · S · C

SPORTS SUPPORTERS CLUB
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-8-3
専修大学 8 号館 1 階 今村記念法律事務所内
専修大学スポーツ・サポーターズクラブ

【競技における好きな言葉】

①「柔能く剛を制す」：「自分よりつよい選手に勝てるチャンスがやり方次第であるところが面白い」と競技の魅力に触れた。

②精力善用 自他共栄という柔道の父と呼ばれる嘉納治五郎の言葉。自分の力を他の人のために使う精神を競技から学んだという。



←プレー映像は
こちら！！

↑ 主将としてチームをまとめる

The logo for Career Drive, featuring a stylized 'C' and 'D' symbol above the text 'Career Drive' and '株式会社 キャリアドライブ'. To the right is a QR code.

専修大学 学生寮のご案内

朝・夕2食付
手作りの
料理



寮長兼母が
住込みで
サポート



家具付き
プライバシー
居室



コロナウイルス
感染防止
対策



より皆のために

KYORITSU
HOTELS & DORMITORIES

入寮希望・お合せ・お申し込み・管理運営
共 営 立 志 実 践 テナ ン ス 学 生 事 務 局

0120-28-1030



相撲部 体験記

福田翔也

「大きな選手に勝つのが面白い」



ホーズを取る福田。レーサーになるために体重を15kgほど落としている。(撮影：河上明来海)

去年度の東日本学生リーグ戦で、Aクラスに昇格、そして今年度の東日本学生リーグ戦でAクラス残留を決めた相撲部。チームを支えたのは、キャプテンの福田翔也(商4・鳥取城北)だ。福田は今年の全国学生個人体重別選手権大会、65kg未満級で3位に入賞している。65kg未満の階級で、力士の中では小柄な選手だが、「小さいからこそ、大きい選手に勝つのが楽しい」と相撲の魅力に声を弾ませる。1年を通して、体重別の大会は1大会で、それ以外の大会は全て体重は無差別だが、「体は小さくても団体にしたい」という気持ちで、自分の長所である「スピードを活かした中に入る相撲」を磨いた。これまでで最も印象に残った試合は、「早稲田との入れ替え戦。Aクラスに残留できてよかった」とAクラス上位進出は、後輩に託した。そして福田のこれから。はなんと「ボートレーサーになること」だ。この取材時の2週間後にレーサーの試験を控えている。「なることはすごく大変だけど、別の競技でも頑張れるところを見せたい」と新たな夢に向かって進んでいる。力士からボートレーサー。異色の経歴を持つことはできるかー。(野田颯太)

次の夢はボートレーサー。

今年2月に現役を引退し、すぐさま3月から専大スピードスケート部を率いることになった近藤太郎監督(平27年経営卒)。就任してからまだ間もなく、「選手から指導者という立場になると、こんなに(気持ちの持ちかた)が変わるのか」と衝撃を隠せなかつた。具体的には、「技術的な指導だけでなく、プレー以外の生活面などにも目を配らなくてはならない。選手の活動全般を把握する必要があるところ」という。ただ、選手時代に指導者として関わり係性を構築したいと感じていた経験を活かし、選手には積極的にコミュニケーションを取りにいっている。「自分

力士を支える裏方役：ちゃんこ番

相撲部屋の伝統である、食文化「ちゃんこ」。陰でチームを支えているちゃんこ番の吉田海斗(経済4・日吉ヶ丘)さんにお話を伺った。毎日全員分の朝、夜のご飯を約1時間半かけて作っているそうだ。週に2回の買い出しで、1回で3万円ほどの材料を買いらしい。毎日作る中で、「料理の腕が上がる、大変だが楽しい」とやりがいを感じている。「うまくできた日は綺麗になる、失敗すると余ってしまう。美味しく作れたうえに完食になった日は嬉しい」と毎日チームのためにちゃんこ作りに励んでいる。歴代、先輩から作り方などの全てを教わって引き継がれているちゃんこ番。見えないところでチームを支えているとても大事な役割だ。(野田颯太)



食事の時間は力士で食卓を囲む



とても大きな鍋で煮込む

実際にいただきました！肉と野菜のうまみがいっぱいあって美味しかったです！



土俵の中を体験！

普段はなかなか入ることのできない土俵内に潜入！実際に構えてみると、相手との距離はかなりの近く、周りの縄の部分もすぐに届きそうだった。実際に身体が大きい



とにかく食べる

吉田さんによると、部員全体で一日三升(30合)のご飯を食べるらしい。体重が全てとなる競技で食事量というところは欠かせない。



←相撲部の練習風景はこちら

専大購買会

専修大学購買会では、伝統的に専大のグッズをおかれています。これは、専大OBの希望により作られたものが多く、中でも一番売れ筋が良いのが、「専大黒門カレー」。



「気候に合っている、お待ちしています！」と話す購買会スタッフの方々は、味にも定評がある。他にも、スウェットやキャップなども多く売れている人気商品である。グレイの記事に専修大学のカラーが入ったスウェットは体育会に所属していない一般の



最も売れ行きが良い専大黒門カレー。味に定評がある。

専大オリジナルグッズが多く並ぶ。



学生にも人気があるという。たしかに普段着にしてもオシャレに着ることができている。デザインは、現在購買会ではコナウイールの影響で客足が遠のいている。今日紹介した商品以外にも日常的に使える文具や、小腹がすいた時に食べられるお菓子など、様々な商品が手頃な価格で売られている。ぜひ休み時間など、ちょつとしたい時に足を運んでみてほしい。きつとお気に入りのものが見つかるはずだ。(文・写真 武田晴樹)



近藤太郎

スピードスケート部 新監督

(若き指揮官)

分はあくまでサポート役。まずは話を聞いてあげる」と心がけている。

(自身の信念)

近藤監督が選手たちを意識して伝えていることは、できないことなんてない。「できない」と決めつけて可能性を消さないで欲しい。若い選手達は、いくらでも伸びる力を持っている。可能性しかない」と力強く語り、選手たちの成長を心待ちにしている。

(これから)

「冬季五輪で最もメダルの数が多いがこのスピードスケート。あまりメジャーな競技ではないが、ウチのチームは実力者揃いなので是非とも注目してもらえればと思う」と意気込みを語った。(河上明来海)

スピードスケート部

現在部員11名と少数精鋭。1年間のスケジュールとしては4月から7月はトレーニング期間とし、冬に戦い抜く身体を作り上げる。8月からの合宿で氷上入りすると、10月末から2月末までは、様々な試合や大会が始まり、全国各地のアイスリンクを点々とする。その間選手たちは学校にいくことができないため、レポートなどを練習後に提出するなどして学業と両立している。また、専大は全国の大学の中でもトップレベルであり、数々のオリンピックを輩出。監督自身も専大1年時の2014年にソチ五輪に出場している。現在では森重航(経営4・山形中央)が2月に行われた北京五輪男子500mで銅メダルに輝いた。

専修Jスポって？

読者の皆様、こんにちは。この度は、専修ジャーナリズムスポーツをお読み頂き、ありがとうございます。編集長の河上明来と申します。この新聞は専修大学文学部の2年次に履修するプロジェクトBという授業に所属し、専修大学の学生たちが所属し、汗を流したい、注目してほしい、という目的で作成しています。

生田キャンパスから1番近くて便利な教習所

向ヶ丘自動車学校

普通自動車

大型自動二輪車

普通自動二輪車

7分



専修大生無料特別スケジュールが好評です♪

専修大学入口よりスクールバス運行中



お申し込み・お問い合わせは専修大学8号館 購買会まで



主将 高瀬

高瀬桂 (提供: 陸上部)



日本人トップ 木村

木村暁仁 (提供: 陸上部)



ダンカン キサイサ

ダンカンキサイサ (提供: 陸上部)

前回大会では3区にて区間20位と苦悶したが、今年は一回り成長した姿に期待。ダンカンキサイサ(経営3・大分県明)は、箱根駅伝では2区または3区に出走したいと話す。2区では、他の留年生と競い合いたい。3区では「昨年のリベンジをしたい」と意気込む。(岡本真実)

3度目の大舞台へ

昨年の予選会では日本人3位の好走で、箱根駅伝出場に導いた高瀬桂(経営4・鳥栖工業)は、今季は主将としてチームを率いてきた。今季のチームは、6月に行われた全日本大学駅伝選手会では16位と、思うような結果を残せず、7月には新型コロナウイルスが部内で流行し、練習をまとめることができなかった。しかし、「夏合宿で下から這い上がってくる新しい力がチームにとって良い追い風になった」と語るように、全体の状態も徐々に向上し、今年の予選会でチームメイトの集団を引っ張る役割に徹し、3年連続の箱根駅伝出場を決めた。「結果的に集団は崩れてしまったので、役割を果たせなかったとは言えないかもしれないが、公園内に入ってから上げるといふ個人としてのプランやタイム、順位は作戦通りの走りができた。ただ、もう一絞りできなかったことは課題」と話す。昨年は11月の走りでもチームを導き、今年は行動でも走りでもチームを引っ張る高瀬の存在は、チームにとって信頼感の強い選手の1人だ。大学最後の箱根駅伝は、「チームとしてシード権獲得を目指している。個人としては、1区か3区で区間5位以内の走りをしたい。しっかりと結果を残して、やりきったという気持ちで卒業できるように」と、3度目の大舞台に向けて、調整を重ねている。(大田和斗)

箱根予選会

圧巻の走りだ！

箱根駅伝予選会が行われた10月15日、専修大学は総合8位で見事3年連続71回目の本戦出場を決めた。その中でひととき目立っていたのは木村暁仁(経営3・佐久長聖)である。圧巻の走りを見せ、留年生に迫る勢いで日本人トップを勝ち取った。チームの本戦出場に大きく貢献した木村は、「3年連続で出場を決めることが出来てよかった、個人としても目標としていた日本人トップを達成することが出来て嬉しい」と喜びつつ、ここ最近の専修大学は予選だけ走れて本戦は走れないという結果が多いため、「本戦もしっかりと走れるように緊張感を持って挑みたい」と話した。

ライバルへの挑戦

去年の箱根駅伝では区間4位と力走した木村。「上に同じ学年の選手が2人いた。同じ学年の選手には負けたくない。また、同じ高校の出身である駒澤大学の鈴木芽吹選手をライバルに挙げ、「いかしつかりと勝負をしていきたい」と語った。どの区間に選ばれたとしてもチームにとってプラスになれるようにしたいと話す木村の走りに期待が高まる。

強みは爆発力

予選会が終わり、本戦へと向けて個人やチームでのトレーニングを進めていく専修大学陸上部。トレーニング前には寮から談笑が聞こえてきた。チームメイト同士で仲良く話しながらそれぞれ練習場所までアップがてら走り出し、練習スタートと共に全員の前つきが変わった。トラック内にマネージャーの声が響き渡る。個人、そしてチームの強みを聞き、爆発力、であると話す。「堅苦しい練習は自分にはあまり合わず、遊ぶときは思いっきり遊んで、やる時にはしっかりとやる。そんなオンオフの切り替えがしっかりと出来る専修大学を選んでよかった」と話す木村。練習からそんな瞬間が何度も垣間見えた。

専修大学の仲間へ

最後にこの新聞を読んでくれる専修大学の学生へ「共に生田の坂を上り下りしている同士、ぜひ坂に注目しながら楽しんでみてほしい。応援お願いします」と笑顔で語った。(中野里咲)

予選会を終えて

陸上部を率いて、就任6年目を迎える長谷川淳監督。予選会を「コンディション不良や故障を抱えながら出場する選手もあり、12人がスタートラインに立つことが大変だった中、思い描いていたタイムや走りを見て、無事突破できたことに安心した」と振り返り、「昨年10位、昨年9位、今年8位と年々順位が上がってきていることにしても、手応えを口にした。専大は序盤こそ他校にやや遅れを取ったが、5キロのタイムラップを区切っていくことに順位を上げていき、結果的に8位でフィニッシュ。選手には「コース内で国営昭和記念公園に入る。後半が勝負だと伝えていた。15キロ時点で10位と15秒差まで上げられたことが大きかった」と話し、理想のレース展開を体現した選手たちをねぎらった。特に日本人1位でゴールした木村は「もちろん、怪我明けだった高瀬・水谷、足の状態が悪い中、力走を見せた吉岡の4選手には、賛辞を送っていた」。

今後の注目選手

駅伝後の新チームとなった際に楽しみな選手を尋ねると、3年生は力のある選手が多いと話し、全員に期待している。2年生ではダンカン、千代島、大田和、1年生では手塚、福田新井、村上の4選手を挙げた。期待する選手には主力として出てきて貰わないとこちらが困ってしまう」とやや苦笑しながら言ったが、これが本音だ。選手にはつばをかけ、来季を見据える。

指揮官の姿

監督からみた専大陸上部は、「練習にしっかりと取り組む選手が多く、言われたことを素直に実行する」という特徴がある。加えて近年箱根路に進むことが多くなっていることから、「自信を持って走る選手が増えている」とい、「従来、試合や記録会では後の方を走ることが多かったが、最近では前の方へ出る積極性が身に付いた」と分析している。そして、指導者として心がけていることは、選手の考えをまずは聞き、そこからアドバイスを行うことだ。「こちらからあれこれ言うのは簡単だが、選手自身が考える力を身につけてもらいたい。常日頃、自分から意思を持ち発信していくことが大切だと部員に伝えている」。

2023年の箱根路へ向けて

「駅伝の鉄則として1、2区で遅れを取ると流れを切ってしまうことになる」と話す監督は序盤に主力となるダンカン・木村・高瀬といった三本柱を据え置き、とにかく往路に注力するレースプランを明かした。往路でシード圏内に入り、復路も勢いそのままに流れに乗っていく形が理想だ。また、監督は在学生へ「学校で共に過ごす仲間が、正月に大学代表として出場し、普段とは違ったアスリートの顔になっているのでそこを注目してもらいたい」とメッセージを残し、「年初めというところで1年の目標を立てる人が多いと思うので、たくさんの人に、よし頑張るぞ」と勇気を与えられるような選手の走り、良い結果を見せられるよう頑張りたい」と意気込みを語った。(河上明来海)

怪我を乗り越え、『一日一日を大切に』



成島航己 (提供: 陸上部)

2年次に箱根に出走し、昨年は怪我の影響でエントリーできなかった成島航己(経営4・専大松戸)は、最後の年、副キャプテンとしてチームをまとめてきた。昨年の怪我については、「非常に悔しい思いをした」と口にした。走る動作すらできずにいた成島は体と向き合い、できることをひたすらやっていたそうだ。「失った期間は戻らないため、前を向いてやっていくしかない」と思い、一日一日を大切に」と語る。予選会では、副キャプテンであり、3年連続出場ということから非常にプレッシャーがかかっていたが、無事予選を通過。しかし、個人としては納得のいく走りができなかったという。成島の目標は、箱根駅伝では2年越しのリベンジ。具体的には区間1桁。最後は笑顔で終わりたい。(岡本真実)

それぞれの思い

最高学年として予選会には外せないと言った富永裕憂(経営4・鎮西学院)は「本戦では予選会以上に癖のある区間があり、アップダウンが激しいコースがある。それぞれの区間の特徴に合わせて走ることに重きを置いて、アップダウンを意識しながら練習している」と話し、予選会の出走は3年連続となる吉岡拓哉(経営4・我孫子)は、「1年目は思うような結果が出せず苦労したが、今年最後の予選会では出し切れたという気持ちがあり成長できた。予選会を無事に通過でき、安心している。」と語った。「中学生の頃からの夢である箱根駅伝という舞台にあと一歩で届くというところなので自分の夢を叶えられるように自分のできることを最大限にやる」「自分が走るとしたら5区なので、山の神になれるように頑張る」とそれぞれ本戦に向けての強い意気込みを語った。そして、今年予選会初出走となった、千代島宗汰(文2・鳥栖工業)は、昨年箱根駅伝のメンバーに選ばれたものの出走できずに悔しい思いをしたと語った。今年は個人としては区間10位、チームとしてはシード権獲得を目標に頑張ると話した。(大津友笑)



予選会のメンバー (提供: 陸上部)



練習風景はこちら→



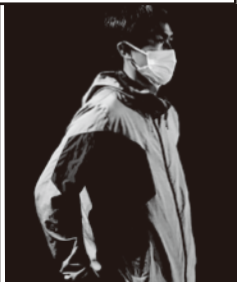
吉岡拓哉 (提供: 陸上部)



富永裕憂 (提供: 陸上部)



千代島宗汰 (提供: 陸上部)



長谷川淳監督 (提供: 陸上部)

専修大学校友会は 専大スポーツを応援しています！



第14代専修大学校友会長

桃野直樹

専修大学 校友会

〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8専修大学神田キャンパス
TEL.03-3265-7579 FAX.03-3265-7089
E-Mail koyuka@acc.senshu-u.ac.jp

第99回箱根駅伝予選会

木村 暁仁
日本人
1位

日本人トップでゴールしガッツポーズする木村
写真提供：月刊陸上競技

10月15日、3年ぶりに市街地のコースが復活した箱根駅伝予選会が陸上自衛隊立川駐屯地（国営昭和記念公園）で開催された。専大は記録…10時間46分56秒の全体で8位通過を果たし、3年連続71回目の箱根駅伝本戦出場を決めた。また、木村暁仁（経営3・佐久長聖）が（62分32秒）の日本人トップでゴールし、専大として16年ぶりの快挙を成し遂げた。

専大
箱根駅伝
3年連続71回目



伝統への挑戦

箱根本戦出場を決め、笑顔の部員たち
写真提供：陸上部

がんばれ、専修大学！



東日本住宅(株)

創業50年の信頼と首都圏36店舗のネットワーク
東京・神奈川・千葉・埼玉の不動産売買・賃貸なら東日本住宅
代表取締役

桃野直樹

(第14代専修大学校友会会長)



webサイト